

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2014年度は、「攻めの経営拡大」の年と位置付け、産業インフラ、パワエレ機器を中心とした収益力の強化および現地企業との協業やM&Aも活用した海外事業の強化を推し進めています。また、さらなる収益力の強化に向け、仕事の進め方をゼロベースで見直す「業務品質の向上」に注力しています。

当上半期は、当社を取り巻く環境が緩やかな回復基調で推移するなか、前年同期に比べ増収増益を達成しました。特に利益面では、増収効果に加え、コストダウンなど体質改善の取り組みも寄与し、営業損益、純損益とも前年同期を大幅に上回るなど、利益体質の強化が着実に図られてきています。また、受注についても、発電プラント事業において国内大型火力発電設備の受注を獲得するなど、好調に推移しました。

こうした上半期の業績および今後の経営環境を踏まえ、通期業績予想を上方修正しました。

末筆ながら、当社をより一層ご理解いただくための取り組みである「工場視察会」や「富士電機レポート2014」に対し、多数のご応募・ご請求をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。引き続き、株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年11月

富士電機株式会社
代表取締役社長

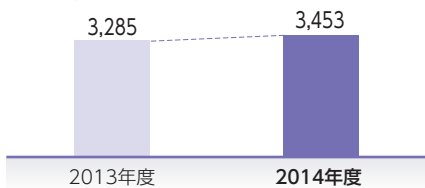
北澤通宏



2014年度上半期決算

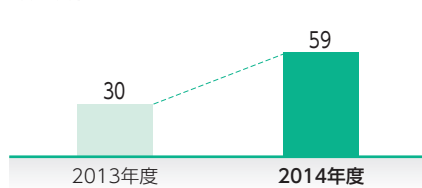
売上高

単位：億円



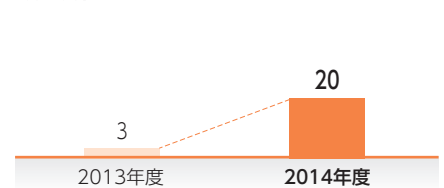
営業損益

単位：億円



純損益

単位：億円



セグメント別状況

売上高

単位：億円

	2013年度	2014年度	増減
発電・社会インフラ	569	624	54
産業インフラ	697	739	42
パワエレ機器	792	820	28
電子デバイス	589	651	62
食品流通	623	610	△13
その他	287	297	10
消去または全社	△274	△287	△14
合計	3,285	3,453	169

営業損益

単位：億円

	2013年度	2014年度	増減
発電・社会インフラ	△8	△4	4
産業インフラ	△17	△17	0
パワエレ機器	5	11	6
電子デバイス	21	37	16
食品流通	47	50	3
その他	10	10	0
消去または全社	△28	△27	1
合計	30	59	29

売上高

前年同期に比べ

169億円増収の3,453億円

売上高は、需要増に加え、為替の円安進行による増収効果もあり、前年同期に比べ増収となりました。

セグメント別では、発電・社会インフラは、国内の太陽光発電システムや電力系統などの電力流通分野およびスマートメータを中心に増収となりました。産業インフラは、変電における国内大口案件、および産業プラントの国内更新需要の増加により増収となりました。パワエレ機器は、国内外におけるインバータ・サーボ、受配電制御機器の需要増により増収となりました。電子デバイスは、インバータ・サーボ、産業機械向けを中心としたパワー半導体の需要増により増収となりました。食品流通は、自販機において中国市場での拡大による増加があったものの、国内での天候不順、消費税率引き上げに伴う需要減などにより減収となりました。

営業損益

前年同期に比べ

倍増の59億円

売上高・生産高の増加に加え、コストダウンなどの体質改善効果により、前年同期に比べ大幅な増益を達成しました。

中間配当

1円増配の1株当たり4円としました。

安定的かつ継続的に実施することを基本とし、連結業績、今後の成長に向けた研究開発や設備投資計画および経済環境などを総合的に勘案し、前年同期に比べ1円増配の1株当たり4円とさせていただきます。

期末配当は、下半期の動向を見極め決定します。

2014年度通期業績予想

上半期決算および今後の経営環境を踏まえ、上方修正しました。

単位：億円

	2013年度 (実績)	2014年度 (4/24予想)	2014年度 (10/30予想)	増減 (10/30予想 - 4/24予想)
売上高	7,599	7,800	7,900	100
営業損益	331	380	400	20
純損益	196	230	240	10

※前提為替レート 1ドル=100円、1ユーロ=135円

食の「安全・安心」に向けた新ビジネス

食品流通分野における「安全・安心」の提供を目指し、得意とする電気・冷熱技術を活用した事業領域の拡大に取り組んでいます。



TOPICS 植物工場で生産開始

2014年9月、農林水産省の次世代施設園芸導入加速化支援事業に認定された大規模イチゴ栽培施設「苫東ファーム(株)」(北海道苫小牧市/2014年4月より当社資本参加)において、生産を開始しました。

夏から秋にかけて端境期となる国産イチゴを通年で出荷することができる当栽培施設に対し、当社は、電気技術、冷熱技術、IT制御技術を提供しています。植物工場に求められる温度、湿度、CO₂、光などの最適な栽培環境やエネルギーの効率的利用に関するノウハウを確立し、市場ニーズに応じた農産物の通年供給に貢献します。さらに鮮度を維持した迅速な物流モデルを構築していきます。



ハウス1棟(2ha)で操業開始。2016年度までにハウスを1棟増設し、計4haとする計画。



皆様のご応募ありがとうございました

2015年版 当社オリジナルカレンダー

多数のご応募をいただき、厚く御礼申し上げます。ご請求いただいた株主様に、11月下旬より順次発送しております。2015年のテーマは「日本の世界遺産」です。

ホームページ のご案内

▶▶▶ <http://www.fujielectric.co.jp/about/ir/>

当社ホームページの株主・投資家情報では、決算をはじめ様々なIR情報や富士電機レポートを掲載しています。またリリース発表など最新のIR情報をメール配信しておりますので、ホームページからは非登録ください。

「株主・投資家情報」検索はこちらから ▶ 富士電機 IR 検索



本報告書の将来についての計画や戦略、業績見通しに関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があります。当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。